

## ロマノ・ヴルピッタ先生の名誉教授記念号に寄せて

経営学部長 吉岡 一郎

ロマノ・ヴルピッタ先生は、平成21年3月末をもって京都産業大学をご定年でご退職されました。先生が本学にご勤務なさいましたのは、昭和53年のことで爾来31年、教育・研究を通じて本学の発展に寄与されてこられたその長年のご功績により、先生はご退職と同時に京都産業大学から名誉教授の称号を授与されました。それを記念して本号を発行させていただくことは、われわれ関係者一同の大きな喜びであります。

先生は昭和36年にイタリアのローマ国立大学法学部をご卒業後、東京大学文学部研究生（交換留学生）としてご研鑽を積まれ、昭和39年にイタリア外務省に入省されました。また外交官としてのキャリアの積み重ねと並行して、ナポリ東洋大学文哲学学部において日本近代現代文学の非常勤講師を約2年半の間ご担当されました。その後当時のEC委員会に出向し、駐日EC委員会代表部次席代表の要職をお勤めあげられたのち、昭和53年に京都産業大学教養部講師として着任され、昭和57年に教養部助教授に昇進されました。そして翌年の昭和58年の組織再編により経営学部助教授となられ、平成2年に教授に昇進され、経営学部の研究・教育活動の中心となってお活躍いただきました。その間、本学の看板である世界問題研究所とも密接に関係され、平成16年12月から3年の間、世界問題研究所所長もお勤めになりました。

先生は、本学部では「ヨーロッパ企業論」を長年ご担当されました。これはEC委員会および駐日EC委員会に在籍され、ヨーロッパ、日本両方の経済にご造詣の深い先生ならではの講義でありました。また先生のご専門は、あまりに多岐にわたるため一つに絞ることは困難です。よって、あえて私見を提示することは控えて、インターネット上で拝見した先生自らの文章（月刊正論 私の写真館）を紹介させていただきます。

「(前略)ただ私は、ムッソリーニの生涯が象徴する“希望と挫折”が、イタリア国民の大いなる季節と重なることを是非日本人に知ってもらいたいのである。また“イタリア人の物語”を知ることで、戦後日本が喪ってしまった“日本人の物語”を自ら取り戻すことの必要性を強く感じ取ってもらいたいという密かな願いもある。いまの日本は死者の言葉が蔑ろにされすぎている。(後略)」

このようなお考えに基づいて、先生は「不敗の条件－保田與重郎と世界の思潮」,「ムッソリーニ－イタリア人の物語」の2冊のご著書を、中央公論社および中央公論新社から刊行されたのでありましょう。日本で生まれ育った日本人よりも日本人らしい（と私は確信しています）先生のお人柄は、イタリアと日本というともに第2次世界大戦で敗れた経験を有する両国での生活体験を有し、その後の経済的繁栄によって見過ごされがちなそれぞれの国固有の思想に対する深い知識・洞察・批判的精神の賜物ではないかと、勝手ながら推察するところであります。やさしくて博識でダンディでいらっしゃる先生が、これからもますますお元気で活躍されることを、心より祈念いたします。

